

広酪西部地域組合員連絡協議会

三月七日 J A 広島市農協砂谷支店

## 牛群検定研修が好評 近く二回目の開催を求む！

広酪西部地域組合員連絡協議会(会長 渡辺和裕)は、研修会を開催し、砂谷部会やチチヤス、広酪からは河野洋一技師(経営支援課)、寺道弘生職員(生産振興課)を含め十六名が出席した。

砂谷部会の植田会長が開会挨拶をした後、鈴木直樹獣医師(N O S A I 広島)から乳房炎対策、牛島隆一所



長(全酪連大阪支所三次駐在員事務所)からは、泌乳曲線を用いた牛群検定に係る研修を行った。

参加者からは、何れの研修も興味深いとの感想が聞かれ、「検定研修会は、近い内に第二回目を開催して欲しい」との要望もあるなど好評であった。

甲奴郡酪農組合

三月十八日 広酪東部倉庫

## 暑熱対策を学ぶ ストレス解消三つの鍵

甲奴郡酪農組合(勉強会担当 小川敏弘)は、石井健太郎副審査役(全酪連大阪支所三次駐在員事務所)を講師に迎え、夏場に向けた暑熱対策に備えることを目的に勉強会を開催した。

石井副審査役は、暑熱ストレスを解消するカギとして、①換気、②エサ、③重曹の三つを挙げて研修を進められた。

そのポイントとして、乳用牛にかかる暑熱ストレスの低減には、直射日光を避けること、風通しを良くすることが重要で、この為には換気扇や細霧装置の活用が有効である。また、エサの質と給与に関しては、消化性の早い食物繊維を朝・夕の涼しい時間帯で行い、飼料給与量を増やすことが適当である。重曹は、夏場は乾物摂取量の減少から唾液中に含まれる重曹が減少するため、一日一頭あたり百五十g〜二百g給与することが適当であるとの紹介が行われた。

この他、「ナイアキールゼット」を紹介し、水溶性のビタミンの一種であるナイアシンの給与は、①フラッシング誘導で体温低下作用がある(〇・五〜〇・八℃)。②ケトージスの予防効果がある、③繁殖・発情行動や受胎性に効果があることを挙げた。

参加者は、この時期から夏場に向けての暑熱対策を進めることで事故が生じないよう努めたいとの意気込みが聞かれた。



甲奴郡酪農女性部

四月一日 広酪東部倉庫

## 平成三十一年度総会 新元号「令和」 気持ちを新たに！

甲奴郡酪農女性部(部長 池田月美)は、会員九名が出席し、平成三十一年度総会を開催した。広酪からは湯浅典子職員(経営支援課)が出席した。

池田部長からは「年々酪農家が減少していますが、女性がみんなで踏ん張って、たまには息抜きをして楽しい事をしましょう」と挨拶された。上程された「平成三十一年度事業報告及び収支決算」、「平成三十一年度事業計画及び予算案」を賛成多数により承認した。

事業計画では、研修会と称して、七月十日に尾道方面への日帰旅行を企画された。当日は、新元号「令和」が発表され、「みんなで気持ちを新たに頑張らしましょう」と、久しぶりの近況報告等、会話の花が咲いた楽しいひとときを過ごされた。

三月二十二日 (有)安瀬平牧場

## 『(有)安瀬平牧場に行つちやおう』の巻き がんばれ山陽乳業！

若き酪農女性グループ「ときめき隊」は、第八回目となる企画『(有)安瀬平牧場に行つちやおう』の巻きを展開した。同牧場の温泉川直寛社長から牧場概要の説明を聞き、牛舎やミルクパーラー等の施設を熱心に見学し、質問も多くあった。

また、ときめき隊として、災害復興を目指す山陽乳業(株)を応援するため、三原市主催の「やっさだるマン福岡コンテンツ」に応募され、惜しくもグランプリを逃したものの、最終選考には残った。



(山陽乳業(株)を応援するときめき隊員)



(昼食会場「和乃食ほてい  
(三次市上川立町)」で記念撮影)



(有) 安瀬平牧場でミルクパーラーを視察▶

三月二十七日 鮎の里高瀬の湯

## 口和・高野合同交流会 隣接地域間で家族仲良く意見交換

口和町酪農組合(会長 田邊輝之)、高野酪農振興会(会長 向田康浩)は年に一度の恒例行事となった交流会を開催した。これには、両団体の構成員である家族および関係機関を含めて総勢二十三名の参加があった。

田邊会長の歓迎挨拶後、広酪の和田慎吾理事からは、前日開催の広酪・県酪政連主催による講演会・意見交流会の概要を紹介し、広酪からは竹ノ内寛治課長補佐が次年度以降の広酪の事業内容の変更等を含めて情勢伝達した。その後は、道岡泰之支所長(庄原市口和支所)による乾杯発声で交流を深めた。

両団体ともに、それぞれの構成員が減少した中で、この様な合同開催によって、参加人数も増え、賑やかで話題豊富な懇談が行われ、活気溢れるものであった。

交流会前には口和町酪農組合の総会が行われ、田邊会長からは指導機関や会員への御礼が述べられ、「平成二十九年度事業報告」並びに「平成三十年度事業計画・予算案」を可決承認した。





## 乳質改善研修会&大仙祭

### 良質乳出荷は原因乳を除去すること！

福山地方酪農協議会(会長 山本芳紀)は、毎年恒例の大仙祭を開催。

「大仙祭」の前にして、牛島隆一所長(全酪連大阪支所三次駐在員事務所)による「体細胞コントロール」と題した乳質改善研修が行われ、牛島所長は、前段で今年四月一日から、これまでの衛生的乳質格差金財源を活用した指導事業予算が廃止される一方で、衛生的乳質格差金テーブルに照らして得られた財源は、一定の基準を満たした良質乳に対する奨励金として還流する仕組みとなることを受けて、体細胞数を三十万/ml未満にすることが酪農経営収支に大きく影響することや、同様に二〇二〇年四月からは中国生乳販連による会員統一の乳成分・衛生的乳質格差金テーブルの運用も始まることから、従来にも増して一歩踏み込んだ乳質改善への努力が必要であると示唆された。

研修会でのポイントとして、「衛生的乳質で基準を下回る事例においては、一〜二頭の乳房炎や高い体細胞数値を示す場合が多く、尚且つ、この牛の一〜二分房に原因がある事が多い。家族経営での手技の変更は意外と難しく、まずはバルククーラーから原因分房分の生乳を除くために、その分房を探す事を優先すべき。これは乳房炎対策ではなく、体細胞数のコントロールであり、言わば分房のコントロールである」として、牛群検定実施農家での「検定日の体

細胞(SCC)記録から見たバルク乳情報」を参考にした見方を説明され、牛を特定するには、PLEスターを使った分房の特定を推奨された。

その他、最頻値と中央値の話から体細胞リニアスコア、泌乳中の体細胞数低減対策ではビタミン給与、プレディツピング剤「アダレスター」、牛床衛生のための「トコマイト」を紹介された。会員からは多くの質問があつて、関心の高さを伺い知れた。

研修会の後、大仙祭が執り行われ、参加者は玉串を捧げ、乳牛の繁栄と守護を祈願し、その後、会食を交え、和気藹々と情報交換が行われた。



## 今年も牛供養に大山寺へ

庄原地域酪農振興会(会長 赤木 靖)は、恒例の視察研修形式ではなく、牛供養を兼ねた大山寺(鳥取県西伯郡大山町)へ参拝した。参加者は十名と少人数ではあつたが疾病等がなく、牛が健康であるようにそれぞれに願いを込めてお参りした。



大山寺(だいせんじ)は鳥取県西伯郡大山町(大山隠岐国立公園内)伯耆大山中腹にある天台宗別格本山の寺で奈良時代に成立した山岳信仰の霊場。